

廿六卷

廿六
社
領

291
7
1-26



参河志 十六 三河 渡邊政香輯録

御朱印神社及社寺記

碧海記

大瀨村宮持現社 領之村名部中

身部令 七石
書女万部集 二十六石
二毛部松 六十石

張之
長田兵部



大瀨村上宮持現社 領之村名部中 長田兵部

古代御朱印公題書更代古早の事九斗部中と領物に書更儀田部方
より之儀に承退物に之儀長田兵部八斗之十六石部中領之部中
創業録に依り大瀨村に冬到り海部大瀨津著四斗也大瀨村長田兵部直勝也
入部集に依り直勝長田兵部通大瀨村上宮持現社に食之直勝部中直勝也
直勝姓に依り長田兵部直勝長田兵部十斗之十六石部中直勝也

A 95 A291
7
1-26

中瀨村肉多部社

領杉石

三才口之

部

牧徳之進

小室村卯之部社

領杉石

三才尾曾根

口

牧彌在

小室村佐古大部社

領杉石

口

牧高在

下室部村椿大部社

安天部社領

六石

口

淺井甚之助

下室部師領

安天部社領
地領

口

淺井甚之助

上室部村天王社領

拾四石

口

赤塔甚之助

三才口社領十二石余

宮城村大頭大部社領

甲之石

部之五石

市川之魚

三才口分^甲七石 在上和田森崎社領四十三石

字都在^乙五石之大語所斬且頭飛^吹嚙殺^吹蛇救^吹主危難

口六十九石大尾社在下和田村天王手中領之字津左在^乙而忠茂所獵

入山家有白大候走到^乙村下忠茂俄爾催睡^吹吠犬在傍咬衣裾稍寤復

寐^吹犬頻吠于枕頭忠茂怒妨熟睡拔腰刀切犬頭頭飛于^乙村梢嚙着犬蛇

頸主見之驚切裂蛇而還亦感犬忠精埋頭尾於^乙和田村立祠祭之

家康公聞之甚感嘆焉且以有佳之靈驗賜赤地蓋守津氏
大久保一族先祖也

櫻井村白山社領

五十石

三才日之

野田河内

上條村白山社

領五十石

三才日之

別當神光寺

天台宗

高柳村神田社

領部石

部石石斗馬場屋敷

社之

山崎村白山社

領百石

在大島村

長坂勘解由

森越村八幡社領

六十石

長坂

板倉備後

橋目村白山社

領

二百石或作五百
一作三百五十石

社之

上野村天主社

領

部石

社之

下村或能

智鴨村五社

社以幡
三石

領石

社

渡野村庵野大社
領石

社

社谷檀兵衛

幡巨社

小浜村八幡社
領石

三才曰 倉本天照大社 八幡大社

社

石原正太郎

口村荒社
領石

社

石原茂内

江原村北社
領石

社

長坂喜久

長良村北社
領石

社

加茂三馬

室村神社領之

社

田植之

須賀村天主社領之

社

溝井湊右

徳永村神社領之

社

竹井依右

長海村八劍社領之

社

岩瀬右

寺津村八幡宮

領之格右七斗

社

渡道助右

六十九石
三才三石六石
由妻方堂祀三石右

寺津八幡宮正月十五日未成供仕古有下田祭以小菅長一寸即上行共

米同八合粟之考下米八合中多寡及清濁以上歳豊凶于今

有之 三才寺今日三河八幡七社八ヶリ 七社下ハ伊賀八幡兼小坂井尾
寺津 長流 以上七社

八面村荒川天主社 領之格右

社

石川重太夫

悉く式社記に他不可合見

熊子村稻荷社 領之格右

社

牧谷太夫

右より

三才會 六十九卷
天王社 巴崎馬越
東横須賀 當古
須養牛川等
有祢天王社皆有
少社領所祭無祇
園同牛頭天皇

西尾伊天山神社

領十八石

新泉源文

口城内津劔八幡領

新泉源文

三才會 六十九卷九葉
源氏重代寶劔友切丸以納于當社
源於源弼授聲足利左馬頭義氏之劔也
口云三河八幡七社 伊賀八幡舞木小坂井西尾寺律長依
以上七社

加藤

猿投神社 領七百六拾石

中條家内補

委式社部記略之

社家 三宅重税

伊織

竹田赤女

三才會 六十九卷
酒投神社 在酒投村社領七百七拾石
祭神未考 神主家 藤氏 別當 貞言十六坊 多聞院
九月九日祭礼 自近國引稻穀馬倍奉甚養鹿也 志州馬七十足
濃列馬 百三十足 尾列 百足 各籠六人宛

松平村北神社 領石介 津屋敷付式所石

六所村八幡社 領石石

寶飢郡

篠束村天王社 領石

三才口之

非

本多右衛門

兩谷村天王社 領石

村野宗義

長山

市保護磨

當古村天王社 領石

大林三郎

横濱賀村天王社

領石

石五

竹田五石

三谷村八坂大佛社領石六石五斗六合

竹内九石

蒲形徳助社

領石

櫻井五石

不相村石高社

領石

酒井大石

三才曰社領石八斗

八幡村八幡宮社

領石

寺社五石

三才曰社石高良大佛社有放生寺

慶長九年寺檢比沙汰并村々所託亦壞目内檢地種々在之

夏^マ夏^マ八幡御神主御託託状之写^レ在^レ記

抑八幡領之夏先所判形也此座^ル分^ル津繩之積^ル十五百石程也此

雖然彼御判形^ニ言^ハ過^シ也此座^ル分^ル津繩之積^ル十五百石程也此

仰^ル左様^ニ此座^ル分^ル津繩之積^ル十五百石程也此

祿^直官^等堪^忍罷^成召^出且^者六^佛祈^禱且^者外^聞彼^是述

或^仕公^証前^之テ^也寄^進每^所座^公云^セメ^テ鋪^地内^計被

成^所寄^附公^様御^{披露}仰^ル為^具御^判形^之写^ヲ相^添

奉令進覽の依之未代々龜鑑ニ由る余御慈愍外由
在る家の恐コウ歌白

慶長七年正月吉日

参加八幡神主印判在

又本夏中務少輔忠勝ヨリ御檢地奉行ノ切紙ノ写ニ
急度申入候東三河八幡社之孫命久之我等目ヲ撰
シモ急也并公等ニ由る公由ノ可被 仰付公不及中ノ公
御神領彼是有様ニ此 仰付公ノ可及遣ル其地ニ 御
陳佛上洛ノ砌是迄御出奉

七月廿三日

本夏中務

忠勝判

本津清右殿

小坂井村八幡宮

領九拾石

川出之内補

三才曰四月十日余礼其上旬射取雀十二羽為余牲

一宮村大沢社

領百石

草麻砥民之補

三才曰余社大ニ貴社一宮記曰之
曰云天文天皇令勅伊公宣康立公宣賜草鹿砥氏其子孫相繼
為社歲々余礼五月四日

長山村中宮社

領百石

川人

三才曰為殿麻砥社中宮或為能所本宮

赤塚村石堂神社

領五石
領五石

下宮

上宮

大木村

古田丹後

額田郡

長崎投着宮幡文社

領五石

非

紫田彈正

一作杉平内宮

山城内白山天王社

領五石

極樂寺

大川村八劍大座

領五石

三才七石

非

藤江仁孝

大樹寺村天祐社

領三石

酒部島之丞

長崎能見神社

領石

社名

深見岩尾

桑木村八幡宮社

領石

竹尾東部

口

三才号云昔有山中俊光者建社以靈木多飛末以為材用故呼
其如名桑木村

延化曰山中光重豊家守依云云年々諸の形託ありて神徳成其部

守依より材木桑末に依り桑木ト稱ス云

桑上りト稱スルハ三代將軍御上洛の節台令ニヨリテ改定云

大行村新宮社

領石

社名

大行大帳

三才号云江領百六拾畝余桑末自杉平御勸請ニ由テ建云曰九月四

日六十畝を以テ六所大帳社味高彦根命大己貴尊之子事代天下之身

伊賀村入幡宮社 領土石宗名

此之

柴田左京

六十九卷

三才身舎云々仕領土石 伊賀八幡宮之信仰有蓋驗

イ刑統

九六騷動記一考 伊賀八幡宮（イ）は孝徳朝之御事 朝臣之靈魂に由りて
 伊賀由より三列下丹田村に勧誘し其の地に伊賀八幡宮と云ふ
 徳河の津代の中津川と云ふに信仰斜め此物中世長因次より
 清原云々致りしと毎々其験を著し或は神田の北軍勢
 菅田より丹田迄之押寄ありし清原云々徳河の津路と云ふに是と聞き
 たりと云ふ歌大軍小と既云ふ所ありし是云ふ其の神威ありし
 伊賀八幡宮此は神田より白鳥の矢を以て歌の陣中なること
 又云く一々忽歌の大勢大軍は是に由りし味方持利と云ふに
 別本の抄文なること矢下と名付し四時より八時迄の幡文
 ありし其後之度なる清原云々清原之は信仰を以て清原云々清原の
 指尋と云ふと信感一云ふ清原之は在城の云ふ内自におかれし清原
 其清原の清原と云ふ清原と云ふは此世の今八幡宮は相成り
 是也云々云々云々云々

中世も亦其の中国京東の戦のめがかりは此を説く事ありしは
 忽ち持利と云ふ泰の事ありしが清原の事と云ふは仁徳の事と云ふ
 八幡宮の事と云ふは神田の事と云ふは清原の事と云ふは
 又云く和元中ありし清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事
 此方の清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事
 と由りし事ありし大社は信仰されし清原の事と云ふは清原の事
 と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事
 三河之部の由りし地と云ふは是所と云ふは清原の事と云ふは清原の事
此は柴田氏世系

後京云々大蔵村鎌倉と云ふ事あり 清原の由りし是の古実者と云ふ事
 下の記述は自行事と云ふ事ありし中頃と云ふ事ありし是の古実者と云ふ事
 勢居此世は徳朝朝臣と云ふ事ありし是の古実者と云ふ事ありし是の古実者
 我功の終に大守村中府村久村中と押領し 朝臣と云ふは清原の事
 伊賀門と云ふ事ありし清原と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事
 清原と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事
 我場と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事と云ふは清原の事

今日一書此を挿入して在る代に世移れと云ふ事有りし也。今も此の御記に
今より少くも後の花輪の内より字と葉田ふ此後と云は世江中一付我功六
十三度、乃今より門と七九六十三度、我を於今より七九六と改めし
東思まの上意を改名せしと云。下略、云々、稿他々

非

六名村八幡神社 領十二石
三才十三石

深溝村与師天王 領四石余

池野島四郎

栗本村八幡 領三石

八名郡

加高村加高太師 並大伴 貴船 領百石

竹尾吉番頭

加高若狭

中野石見

五所村奥太師 領三石

尾野常丸

牛川村偏戸太師 陰地石

三石

橋尾村天王社

陰城一石八計

張五

竹生九郎右衛門

長良村茶屋大原

黒市三右

〇

野尻長吉

和野村八幡宮

領三右

〇

久保長右衛門

高井村八幡宮

黒市三右

〇

加藤長吉

長良村八幡宮

黒市三右

張五

佐藤長吉

嵩山村皇大神白土

黒市三右

〇

中山長吉

自谷若一子

黒市三右

〇

古川九左衛門

中山村山王社

黒市三右

〇

中西長吉

馬越村天王社 黒川石

和

中林九兵衛

西川村天王社

清隆坂新田

口

西川信九郎

入文村天王社

除地記石

口

竹文右衛門

有村山王

並

走湯兩社領石

口

坂上大和

下吉田村八幡宮

社領石

和

重廣孫右衛門

酒炙那

吉田城内天玉社 領三枚名

三才名

石田式社

三才備今六十九丁 糸形持統天皇

三才名

田中近江

帝有東國行幸事時暫備宮之跡

詮木日向

六月望夜有花火

田所河津社

田町三ノ又城内

領三枚名

三才名

司甲斐

三才備今云在吉田河津社領三枚名

口所善宮八幡宮

領三枚名

三才名

旗形傳卷

口所魚所能世宮

領三枚名

三才名

河野善宮
高曆年間可退形

相田村神宮八幡兩社

領三枚名

三才名

三才名

相田因形

仁連本村神宮

領三枚名

三才名

及形式

上名村新懸大御所 陸奥名

書

陸奥名

雲谷村新御所

里下二石

〇

中系村新御所 陸奥名 陸奥名

書

二川駅八幡宮

里下二石

〇

後名勘解由

大森村新御所 里下二石

書

後名勘解由

高尾村新御所 領二石

〇

高尾村新御所

日所

逆矛大御所 山王社

領二石

〇 〇 岩田村新御所

山王社

牟呂村八幡宮

領四石

三才十石

〇

森田伊勢

三才堂三十九卷
八幡、和留高井
山吉、永良、野依
津貝、松山、野田
園傍、二、三等、有八幡
各社領

大崎村八幡宮

領七石

書

辻村之内

那佐村八幡宮

黒布三石

口

彦坂院後

大津村御清宮集領 九石

口

中村十九石
伴三石

杉山村八幡宮

領三石

口

中津市尾

口村

陣坂五石
兼山守及七石

山守徳兵衛

津戸村久九大御所

領三石

三才三石

書

大坂次兵衛

三才堂今六十九卷十丁津戸村卷部未考卷正月初申酉五日生土

七郷人困戸不出入未知其由未也振及西宮惠美酒亦正月十日

困戸謂之舟籠之類乎 社院後醍醐帝の多ふと云其節妙其の未

任久保兄

田系城下御清宮

領三石

全田久石

日新善師十二系

城三石

別考

山本大炊

日新福有入江

除地云

在日

引着

大行院

那田村八幡宮

領事

非云

渡邊主格

伊良洲村大座

除地

口

糟合助之進

三才号今曰世名三才 各事考
統業考云伊良洲村大座系創八位常高祥子中史

設樂郡

各倉村白鳥大座

領事

非云

津貝村八幡宮

領事

口

△ 邦片村久丸大匠

院後醍醐帝此皇子と云

改番案大日印史

其二十七二十八と
園よりか久丸と稱せり皇子元文

口 九十九皇子 十四後醍醐帝 十皇子新待賢門院生 六子 皇太子

恒良 弟七子成良親王 弟八子後村上帝 官人藤系氏生 弟一子尊良

親王 弟五子宗良親王 官人原氏生 弟三子護良親王 官人友系氏

生 弟二子世良親王 弟四子静尊法親王 官人友系氏生 躬良親王

懷良親王 官人藤系氏生 弟十三子玄圓法親王 官人菅系氏生 聖

助法親王 官人藤系氏生 滿良親王 龜山帝 皇女生 信恒性

昭慶門院生 信元選

無文禪師行狀按元選元年三年生於昭慶門院年五十一疑非其所生
然他無所考姑從之按太平記紹運祿後醍醐帝皇子次序錯亂今
取有據依者叙牙幾餘無所考

懷良親王の皇子は壽松丸と稱し奉り皇子なり其澄

大日本史懷良親王為武郊卿 後醍醐帝皇子 後不知所終相傳懷良屏居

八代於小野亮 即華馬娶菊地武重女生男壽松丸 後曰良宗

政書案此皇子達は阿久さるる又按

日本史宗良親王十餘年為信名守澄 帝被_テ氏給還宗師尊澄逃
遠江井伊城春與保願入援願亦戰死尊澄走吉野秋勅再趣井伊城

經畧東國_ト尊澄養髮及名宗良稱上野親王或信濃宮

其後遠及宮方の輩南子の皇子と云ふ一揆と起せし事とも見えぬハ
後醍醐帝の皇子又ハ佛孫の皇子と久丸と稱ヤハ皇子ハ阿久さるる
これ尚情識の考と云ハ

因云宗良親王撰鈔彙集放集弘和元年十二月重計上之時年七十

不知其所終一子先卒_{各闕} 日本史載一子先卒と云ハ此

一子久丸皇子ハ阿久さるる

宮傳傳化日完永十四丁丑年牛久保長山兩村氏神若一王子者牧所家傳先祖ノ
佛氏神名故と云ハ此造營之事佛親して邦に神保次帝兵ノ内友宗丸ハ

相伴哉後園ニ尋行長岡城ニ攻野右馬允忠成ノ家臣稻垣竹右ノ御許詔申
ケ六御圃達ニ願フ通り相叶罷歟其後右馬允忠成參列吉田ノ城主水野隼人
正へ御合サレケリ隼人正忠清ヨリ牛久保佛代官鈴木八右へ被仰修履金
四十五兩遣シ若一王子本社弊殿建立棟札ニ記今ニ存

寛永十九年壬午水野隼人正忠清吉田城ヨリ信列松本所替水野監物忠善駿
列田中之城ヨリ吉田城ニ移シ四万五千石ヲ領正保二年乙酉同國岡崎ニ得替小
笠原壹岐守忠知豊後杵築城ヨリ吉田ニ移テ四万五千石ヲ領慶安二己丑
年壹岐守忠知臣郡奉行長谷川太郎左門代官小野孫左門長山檢
分之刻松林ヲ兵卒ニ百姓ニ賜新面敷分ト今ニ唱テ寛文四年甲辰小笠原山

城守舎茅丹波守長定へ分知三千石ヲ領セラレ當村麩屋ヲ定ム代官役
トス後藤金左丈右居延宝四年渡辺太市左馬代官ノ刻若一王子権現ノ
堰内ニ佛手洗ト称ス一ノ池ヲ堰水ヲ留テ農業ノ用水トヤリ中ニ一ノ嶋ヲ築キ
宇賀辨財天々ヲ安置ス金像天々盜難本致木ッウナリ天和二戊午牛久保岩流
又右ノト云者寄進タリ貞享乙丑年氏神ニ年久敷天文ノ洪鏡洪鏡ヲ鑄置テ
新ニ成レ慶長以前ノ棟札等何ト無く夫又永禄十二年卯年ヨリ同十三辰年
牛久保ノ古城跡モ土手ヲ推キ竹木ヲ切テ原野トナシ稻垣平右ノ林ト云所モ
根ヲ堀返シ畠成スイツシカ昔ヲ忍フ州ノ朝茅カ基ニ置露モ跡モ無ク成行
世ノ形勢セメテハ筆ノ跡耳トフソロナル更ニ書置侍リ



